（別紙様式4－1）

熊本中央高等学校　令和7年度年度　学校評価表

1　学校教育目標

自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。
(1)学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。
(2)自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。
(3)明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。

2　本年度の重点目標

学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくり、部活動や実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び、学ぶ楽しさ、役に立つ・認められる喜び」を実感させ
「一人ひとりが自信を持つ喜び」を体験させることを教育の指針とする。
(1)学力の向上　(2)生徒指導と心の教育の推進　(3)進路保障　(4)部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館（読書）活動の促進

3　自己評価総括表

評価基準　A：できている　B：概ねできている　C：できていない

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的生活習慣の確立と個々の学習意欲の向上をサポートする 健康管理や安全指導の充実をはかる 学校からの情報発信に努め、保護者との連携と情報共有を図る	①生徒一人一人の個性を把握し、学習面・生活面でサポートし、意欲向上に努める ②定期考査に加え、各種検定や資格取得に向けたサポートを行う ③2者面談、3者面談、学級懇談会を通じて家庭と学校での生徒の現状把握に努める ④classiの活用により生徒・保護者との連絡を密に行い情報の共有に努める ⑤classiやホームページのブログ・Instagramなどを活用し保護者への情報の発信に努める	A	学級担任よる生徒・保護者との面談で生徒の日常の学習・生活面の状況を把握し、一人一人の指導・改善に努めている。各種検定の受験者数や合格者数はサポート体制により近年増加し安定している。病気など複雑な問題を抱える生徒もいるが、2月末時点で転退学率1.8％と生徒・教員双方の頑張りが成果としてあらわれている。クラスによって頻度に差はあるもののclassiによる学級通信や学校行事の様子の画像配信などは保護者にも好評であり、今年度は進路だよりに加えて生徒会通信も始まった。また、生徒・教員・保護者が集い、より良い学校にするための意見を出し合う「三者協議会」を初めて開催するに至った。
	教育環境の整備	教育環境の整備・点検 危険箇所等の早期改善	ICT関連の環境整備に努め、生徒の充実した学びをサポートする 教室ならびに各施設の安全点検と補修及び、周辺環境の整備充実を図る	①全生徒所有のタブレットや前年度のプロジェクターに加え、AppleTVも全教室に完備し活用することで教育環境におけるICT化を進めると同時に、classiの更なる活用により保護者へ提供する情報の増加に努める。 ②適宜、施設を点検し、危険箇所の修理・改善を実施する	A	昨年度の体育館の照明器具交換、黒板用のプロジェクターに加え、各教室にAppleTVを設置しICT環境は更に充実した。夏の豪雨災害による改修工事や放送機器の不具合への対応も完了し、全ての施設が有効活用されている。文化祭では昨年度同様に後援会の協力のもと周辺道路を封鎖して安全に運営し、保護者をはじめ多くの来校者で賑わった。また長年の懸念事項であった体育館の緞帳も後援会の支援を頂き卒業記念品として新調して卒業式を迎えることができた。
学力向上	わかる授業への取組	生徒の理解度の把握	授業に「熱心に取り組んでいる」生徒の割合と、授業に対して「満足」と感じている生徒の割合がそれぞれ80%以上となることを目指す	①年2回教務アンケートを実施することで生徒たちの授業に対する取り組みと自己評価、ならびに教師への評価を確認し、その結果をそれぞれ個々の授業にフィードバックし改善に努める。 ②ICT機器の活用など授業の工夫に努め、知識・技能だけでなく思考・判断を促す活動を取り入れる。	A	1回目の教務アンケートの結果をもとに、満足度が低かった教科においては、2・3学期改善するように全職員で周知徹底した。その結果、2回目のアンケートでは、満足度が80％を超える科目が多くなった。ICT機器の活用においては、すべての生徒がiPadを使用できる環境があり、疑問に思ったことを自ら考え調べ学習を行い、知見を深めた。
	学年の取組	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、文検、数検、英検や各種商業系検定などの取得を目標の一つとし、朝学・夕学の時間を使い、積み重ねの学習習慣を身に付けさせる 希望者への無償課外や個別指導への取り組みに努める	全学年でユメチャレ（英単語）・マスチャレ（計算）による基礎固めの取り組みをはじめ、漢検・文章検定の一斉受験や、総合ビジネス科・国語科・数学科・外国語科を中心に、徹底した個別指導で意欲のある生徒達に応える。また、看護科では、国家試験を意識付けのためナスチャレ（国家試験対策小テスト）を取り入れる。	A	漢字検定・英語検定・数学検定では、受験希望者数が増加傾向にある。本校独自の取り組みである、ユメチャレ、マスチャレ等、基礎学力の定着を図る取り組みが根付いてきたと考えられる。高い目標を立て、努力する生徒が多く、検定試験の合格を教員、生徒ともに喜ぶ姿が見られた。そして、始業式・終業式において、検定上位級の合格表彰が全校生徒の前で行なわれ、自信に繋がった。
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の要請 資格取得の推進 教育改革への対応	進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める オープンキャンパス及び企業見学の参加率100％を目標とする 教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する	①LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組む ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携する ③e-learning（classi）の活用 ④進路相談、個別面談の充実をはかる ⑤外部講師による面接指導を実施する ⑥資格取得による入試制度の活用 ⑦総合探究コースと総合ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施する ⑧各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する ⑩資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験を導入する	A	進路決定に向けて多くの先生方のサポートによって目標を実現できた生徒がいた。就職に関しては大手企業に複数人内定などがあった。進学では国立大学への合格を含め、県外・県内進学者が増加した。公務員希望者も昨年より増え、税務職員・自衛隊など内定者が出た。外部講師による進路講演、県外への見学、進路ガイダンスなど年間を通して、進路目標実現のための取り組みができた。次年度に向けては進学希望の生徒に対して外部講師による小論文指導の取り組みや、就職希望の生徒にはインターンシップなどを通して、生徒一人一人が進路のミスマッチがないように努めていきたい。景気の動向や、大学・専門学校の状況などを注視していきたいと考えている。
	一人ひとりの進路目標達成	個に応じた進路指導の推進	社会人として対応できる学力とマナーの向上	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	A	ミスマッチを防ぐためにオープンキャンパスへの参加や就職希望者については会社見学に参加する等、比較することや自分にあった職種に就けるように学年に連絡していきたい。今現在も多くの先生方の協力で様々な指導を行って頂いているが、今後も指導の内容の共有を図っていきたい。
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナー向上 登下校時の交通事故防止	登下校時の交通マナーの徹底 駐輪時の2重ロックの徹底	①登下校時において学校周辺では一列励行を心掛けさせるため、校舎前での交通指導を行う ②校舎間の公道を横断する際の注意喚起を行う ③2重ロックの点検を定期的に実施する。	B	生徒部や学年主任による毎朝の交通指導のお陰で、以前のような交通マナーに関する学校への苦情はずい分少なくなった。クラスマッチなど行事で一斉に移動する際、交通ルールが守られず外部から苦情の連絡が来ることが1～2回あった。ただその都度全体に指導すれば、大きく違反する生徒は少ないため、こちらも随時指導を入れていくことが大切である。校舎間の移動についても時折飛び出す生徒がいるため、日頃から落ち着いた生活を送るよう心掛けさせることが必要であると考える。自転車の施錠（2重ロックも含め）についての指導が不十分であったため、次年度については指導を強化したいと考えている。

生徒指導	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	校則に対する意識を高め、生徒自らが気を付けることで、髪型服装に関する指導を減少させる 生徒指導事案で処分される生徒を減らし、賞罰委員会の回数を減少させる SNSを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる	①学年集会や髪型服装検査の際に、ルールを守ることの意義や必要性を話し、生徒の規範意識を高める ②「怒られるからする」という考え方から「自分のために気を付ける」という意識に変わるような日常の声かけを心掛ける ③SNSや薬物防止などの講話を実施し、生徒の防犯意識を高める	B	今年度は生徒会が中心となり行事の際の校則順守や校則の改定に関する活動をしたことで、校則について考える機会が多くあった。具体的方策②のように「怒られるから守る」ではなく「自身のために気をつける」という方向に、生徒の考え方が変化するよう様々な機会で話してる。全体的に見て生徒の様子（生活・服装など）は改善されてきたが、教員側の意識や指導する姿勢が不十分ではないかと感じられる場面もあり、以前のように頭ごなしに怒る必要はないが、もう少し教員側が校則の遵守について考えるべきではないだろうか。6月に1年生を対象としたSNS講話を実施し、SNSの使い方や他人との付き合い方について学んだ。11月には薬物乱用防止についての講話も行った。ここ数年、高校生のSNSトラブルや薬物による検挙が問題になっており、今後もこのような機会をつくり、生徒の意識を高めていきたい。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見	校内からいじめをなくす	①「いじめをしない、させない、許さない」という、いじめに対する学校の方針を徹底し、それらを生徒に周知する機会を設ける ②授業や掃除、HRなど普段のクラス活動の中で、生徒同士がつながるような取り組みを実施する	B	2学期に「いじめアンケート」を実施した。クラス内での人間関係のこじれから、一方が無視をされたり陰口を言われてるという記載があり、該当のクラス、学年から事情を聞いたが、それがいじめに発展しているという事実は出てこなかった。1年生で学年末になりクラス内での人間関係のトラブルは多少あるようだが、生徒部が関わるような事案に発展することはなかった。今後も生徒同士の関係づくりに気を配り、いじめが起きない学校を目指したい。
	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める	生徒に関する情報を職員間で共有し、生徒の変化に対応する いじめ事案に関しては、生徒の安心安全を考慮した上で、問題解決に取り組む	①日頃から担任、学年主任、教育相談室、養護教諭、スクールカウンセラー、生徒部で連携を図る ②いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図る ③生徒の生活環境、背景を理解し、普段から生徒の様子に気を配る	B	上記のクラス内でのトラブルは、担任や学年主任から上がってきたものだったが、学年や担任だけでなく養護教諭や教育相談室などからも情報が上がってくるような体制をつくることを心がけたい。昨年度の反省も踏まえ、今年度については学年会にも入り、各学年の様子も聞くことができる体制をつくっている。
広報	各中学校及び中学生に本校の魅力をアピールする	アンケートを実施し中学生、保護者の反応をみる	各イベント（ホテル日航の説明会、オープンスクール、入試説明会等）に参加した中学生、保護者に本校の魅力や学習の取り組みをしっかりと伝える オープンスクールでは参加者600名を目標とする	①オープンスクールのチラシ配りを各中学校に可能な限り手渡しし、その際に高校説明会への参加希望を伝える ②説明会及びオープンスクールでは、本校の魅力がしっかり伝わるよう、各担当の先生方と内容の打合せ、当日の流れを細かく確認し、準備する	A	今年度のOSは2日間開催で300名の定員も直ぐに埋まり、昨年度以上に興味を示している中学生や保護者が増えているよに思う。希望した生徒が参加できなかったため、来年度は更に検討が必要かなと思う。内容自体は先生方のアイデアと高校生の協力でいい雰囲気を伝えることができた。中学校説明会の依頼が若干少なかったので、チラシ配りの際にもっとアピールしていきたい。
	来年度の入学者の確保	志願者数、受験者数	本校の魅力、方針を理解し、入学後何を学びどういった活動に励みたいか明確な目標を待った生徒を多く受け入れる 入学者数300名が目標。	①高校説明会及びオープンスクールで魅力や方針を周知させる ②本校受験を希望する生徒に専願生で受験させるよう呼びかける	A	専願の志願者数が300名を超えた。各説明会やオープンスクールの効果が大きかったと思う。また、SNSの影響も大きく多方面でのアピールが良かった。入試の際に色々な対応が迫られた。先生方の意見を取り入れ改善し、中学校への周知も来年度は必要かと思う。中学生は年々減少傾向にあるので、来年度も気を抜かずアピールしていきたい。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える	①生徒が利用しやすいように蔵書レイアウトを変更する ②生徒のニーズに応じた書籍を仕入れる。 ③図書委員と共に定期的に企画を考え、図書館に興味を持ってもらえるよう情報発信を行う	B	司書の常駐が実現したことで、生徒のニーズにすぐに対応できる環境になった。また、文化祭では古書市を開催することができ、図書館に興味を持ってもらえるきっかけづくりができた。情報発信については課題が残っているので、図書委員と連携して、こまめに新刊の案内を発信できる体制を整えたい。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる	教員とのコミュニケーションを密にして、各教科に関連する資料の収集を行う。	A	蔵書点検を定期的に行える環境になり、資料として活用できなくなった古い書籍の除籍も進んでいる。また、様々な分野の関連書籍の購入も進み、幅広い資料展開ができるようになった。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の真の解決を目指し、人権教育及び人権啓発を図っていく。その為に、人権問題を正しく理解し一人一人が差別をなくしていく実践力を構築していく。	誰もが安心して教育を受けることができる環境、雰囲気を構築するための校内研修の充実。	B	就学困難な状態になりつつある生徒をいかに見つけ出し、どのように対応するか、SSWの活動にどのようにつなげていくかをテーマに研修を行った。また、性別に違和感を感じる生徒への対策への対応の協議も行った。今後の課題は、その他の人権問題に関する研修の充実と、人権問題に対応するための学校のシステムの再構築。
	生徒個々の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の真の解決を目指し、人権教育及び人権啓発を図っていく。その為に、人権問題を正しく理解し一人一人が差別をなくしていく実践力を構築していく	学年ごとに、いじめ・差別する側の心理を理解するための研修を行い、自らがいじめ・差別をする側に立たないように気をつける力を養う	B	いじめや差別をする側に立たないために、自分自身、特に自分自身の心理状態を客観的に理解することができる能力を身につけることを目標に研修を行った。生徒に概ね好評で、ある程度の意識付けはできたものと思われる。課題は生徒に分かりやすい、心に残る研修を行うための内容の充実。
学校保健	心身の健康に関心をもち、生涯にわたり健康で安全な生活を主体的に送ることのできる生徒の育成	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防のための実践力育成	①生徒が自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を養うことができる機会を設ける ②心身の健康に対する興味関心の向上と、正しい知識・技術習得を図る	①保健調査票や健康診断、来室記録などを基に生徒の健康課題を把握し、これに基づき個別・集団指導を実施する ②保健室来室時、簡単な応急処置や疾病の予防行動について保健指導を行う ③生徒や保護者に対し、Classiや掲示物等を用いて保健に関連した最新の情報を発信する ④生徒対象の普通救命講習（修了証の交付、講師：消防署）を年1回実施する ⑤外部講師等による保健講話を実施する	B	本校では、生活習慣の乱れに起因する体調不良を訴える生徒が多く、あわせて手洗い換気など基本的な感染症予防が十分に定着していない実態がある。来室時には丁寧な問診を行い自立に繋がる指導を行った。情報発信は計画的に行うことができなかったが、健康診断や修学旅行前の機会を活用し、基本的な生活習慣の大切さについて伝えることができた。今後は、感染症が流行する時期にClassiを活用して予防対策の情報発信を行う必要がある。外部講師による保健講話として、学校薬剤師が行う薬物乱用防止教室を生徒部と連携し実施した。
	学校環境を整備し、その保全と美化意識の向上を図る	学校環境衛生の管理及び環境美化の推進	①清掃指導の徹底及び環境美化の意識を高める活動の推進 ②法に基づいた学校環境衛生の維持管理及び改善	①学校薬剤師の指導のもと、環境衛生検査や環境整備を実施し、維持・改善を図る ②掃除用具の点検及び整備、掃除方法の指導を行う	B	学校薬剤師と連携し、来校時に環境衛生検査を実施した。指導を受けた点はすぐに反映し、環境改善に努めることができた。掃除用具については、保健部が中心となり点検や整備、掃除方法の指導を行った。課題は、トイレの掃除が十分に行き届いていない箇所があったため、今後は掃除監督の指導や巡回の実施が必要である。

4 学校関係者評価

学校長より、生徒、保護者、教職員の自己評価アンケート、各部署からの評価アンケートをもとに報告がなされる。しかし、アンケートの結果には学校の課題が出ていないとの事で次の3つについて評価委員との意見交換が行われた。1つ目教職員のあり方。教職員の年齢層が幅広くなり価値観も幅広くなっている。経験の浅い先生への指導が行き届いていないところがあるが、時間がかかる。評価会員A：勤務先では常に「当たり前のことを当たり前にやっていく」「凡事徹底」を常にいっている。評価委員B:教職員の自己評価の未回答が多い。自分の評価はおこがましいと思うのかもしれないが、きちんと答えるべきだ。校長：教員に求められるものも多く、それが出来ていない部分もあるのは事実である。2つめは校則の見直し。校長：これまでとこれからのあり方。校内でしか通用しないこれまでの見直しを昨年度から生徒会主体で動いている。委員会会議、生徒総会、三者（保護者・教職員・生徒）協議会等を開いている。三者が当事者意識を持つことが大事。最初は生徒たちも要求ばかりを言っていたが、段々自分たちでその要求はどうなのかと考え始めている。評価委員C:三者協議会にも出席をしたが、子どもたちとの距離を縮めるためにも、大人からのアドバイスを聞いてもらうためにも開催回数を増やしてほしい。評価委員B:中学校の生徒指導と高校の生徒指導に違いがある。時代の流れもある。評価委員D:他校はOKなのになぜ中央はダメな校則があるのか。校長：市生連の決まりがあるが、最近は学校に任せている部分も増えてきている。3つめは学校の存続。校長：新しいものを作るより、これまでやってきたことがきちんとできているかを問い直していきたい。生徒自治、保護者参加、わかりやすい授業を本気でやれているかで差別化を図っていきたい。評価委員C：看護科がある強みを活かした方がよいのではないか。専攻科が閉塞的な感じがする。保護者が専攻科に関わっていきたいとの声もある。校長：生徒の声を出す場所がないように思う。色々なものを決めるときには当事者の意見を入れないとひずみが出てくる。昨年指摘された、ホームページはリニューアルしてわかりやすくなっている。是非見て欲しい。

5 総合評価

生徒会中心に生徒自治に取り組み三者協議など新しい取り組みで保護者、生徒、教職員の協力を得ることができたと感じる。経験の少ない先生が増えたため生徒対応等の指導は今後の課題と考える。失敗を恐れず挑戦できるようなクラス、職場の雰囲気づくりを心掛けたい。今後もこれらの指導に継続的に努めていきたい。

6 次年度への課題・改善策

「なりたい自分」を叶えられるような挑戦できる教育環境を整える。挑戦する一方で基本的な所がきちんとできているか教職員も含め再確認していきたい。

令和７年度　学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

令和8年3月13日

学校法人　加寿美学園

熊本中央高等学校

理事長　竹下　英　様

熊本中央高等学校

学校長　塩田　顕一郎

決裁	理事長	竹下　英	学校長	塩田　顕一郎	教頭	冨田由佳	教頭	福元　聡	事務局長	柴田　徹	事務長	橋本孝一